

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年10月31日

【評価実施概要】

事業所番号	1176000451
法人名	有限会社 かおる
事業所名	グループホーム かおる
所在地	360-0271 坂戸市上吉田260-24 (電話) 049-280-7050

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年10月31日

【情報提供票より】(平成19年9月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤8人, 非常勤12人, 常勤換算 8,3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り		
	2階建ての 1階 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	26,540円 + 実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,315円			

(4) 利用者の概要(9月15日現在)

利用者人数	16 名	男性	5 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団薫風会坂戸内科医院、おおば歯科クリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは緑豊かな自然の中に設置されており、広い敷地の庭には、四季を楽しめる木々があり、散歩などが楽しめる。開業医であるホームの理事長が在宅で困っている人々を見て、「一主治医として最期まで生活の支援をしたい。」という思いで、ホームの運営を開始し、これまでに数人の利用者をホームで看取った。食事には特に気を配っており、専門の調理員を配置し、季節の食材を使用しての調理、家庭で使用していた馴染みの食器で盛りつける等、おいしく召し上がっていただけるように工夫している。また、音楽大学の先生による音楽療法を週1回実施し、利用者の皆様に楽しんでいただいている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 職員が定着していなかったこともあり、家族へ利用者の様子などの報告が出来ていなかったため、月1回広報誌「かおる新聞」の発行と、「月のご様子」とした個々の日常の様子を、写真と文章で載せたお便りを送付するようにしている。また職員の外部研修への参加も積極的に促すようにした。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価票には職員全員で目を通し、出来ていない項目については職員間で共通理解を図っていく。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 現在までに3回運営推進会議を実施し、参加メンバーには、認知症に対する理解を深めていただいている。災害時の避難方法を周知し、ホーム側と地域住民で相互に支援する体制について検討した。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族には運営推進会議のメンバーに入っていたり、玄関に投書箱を設けたり、面会時に意見の言いやすい雰囲気作りなどを工夫している。また月1回のお便りに、日常生活の様子をお知らせして、不安が軽くなるような配慮をしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近くのお寺のお祭りに参加したり、ホームにボランティアや小学生の職場体験を受け入れている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理事長が在宅医療に力を注いでおり、地域に根ざしたホーム独自の理念を作りあげている。また情報提供表・契約書・重要事項説明書にも明記している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月1回の全体会とスタッフミーティング、毎日朝・夕のミーティングの中で、理念について話し合ったり、フローアに理念を掲示し、職員間で理念の共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会しており、近くのお寺の行事に参加している。小学生の職場体験学習を受け入れている。またボランティアに紙芝居や南京玉すだれをしていただくなど、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回外部評価で要改善とされた項目については、サービス向上のための具体的な取り組みを行っている。自己評価票には現状と今後取り組みたい内容が具体的に記入されており、現状分析を着実にされていた。また自己評価票には、職員全員で目を通し、できていない項目についてはサービスを見直すための指針と捉え、意欲的に自己評価に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の人が認知症への理解を深めていただく機会とするために、運営推進会議を今までに3回実施したが、定期的な開催には至っていない。		「どのような議題にしたらよいか」、「会議を開くことで、関係機関に負担を掛けてしまうのではないか」、という課題があると思うが、利用者が地域住民の一員として、暮らしやすい環境作り、家族との関係作りに役立てられるよう、2ヶ月に1回定期的開催されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	理事長自ら役所に訪問し、事業についての質問や報告をして、密な連携が取れるような働きかけをしている。市からも、何かあったら相談してきてほしいと言われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月送付している請求書と一緒に、近況の報告としてかおる新聞という広報誌と、「月のご様子」という個々の日常生活の様子を、写真と文章で綴り同封している。また面会時や変化にあわせて、随時報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーに家族にも入っていただき、意見をいただいている。「布団を干してくれているのか」、「部屋にゴミが落ちていたが掃除をしているのか」という意見などをいただいております。家族がより一層意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。また玄関に投書箱を設置して、家族が意見を表せるような機会を設けている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前は職員があまり定着しなかったが、現在は職員も定着してきている。新規の職員は利用者が馴染むまでは日勤帯で勤務し、馴染んでから、夜勤帯に入るなど、利用者には不安を与えないような職員配置をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	医師・看護師によるターミナルケアの心がまえや、吸引の仕方などの研修を随時実施している。保健所や医師会で行う外部研修にも参加し、研修会資料を職員全員に回覧して、資質の向上に努めている。新入職員には管理者が認知症ケアについて説明するなど、経験や能力に応じた職員育成の取り組みがなされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	坂戸市のグループホーム部会(3ヶ月に1回)に参加し、情報を交換し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居や家族の方とホームに2、3度足を運んでいただき、ホームの雰囲気に馴染んでから利用していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に対等な立場を意識して介護しているが、介護に慣れ友達感覚になってしまわないよう、気をつけている。また、利用者より、今まで積み重ねてきた経験に基づいた生活の知恵などを教えてもらうなど、お互いに支え合う関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートや入居相談シート等から利用者の性格・趣味・嗜好・生活習慣などの把握に努めている。また、声を掛けるなど日々の関わりのなかで、思いやりや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント時には、家族に意見を聞いたり、職員にも意見を求めたりしてケアマネジャーが介護計画を作成する。皆が同じ目標を持って介護に生かせるようにしている。ケアマネジャーは週1回ホームに訪問しているが、変化のある時はそのつど訪問し、本人や家族等と話し合っている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回担当者会議を開催し、変化に応じて見直しを行っている。変化がない場合は、年1回介護計画の見直しを行っている。		安定しているような利用者の場合も、6ヶ月に1回程度は、新鮮な目で本人や家族の今の意向や状況を確認するとともに、ケア関係者の最新の情報や気づき、ケアのアイデアを集めて、介護計画の見直しをされることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を生かしてターミナルケアを実施している。また、家族の要望に応じて入院の回避、早期退院を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの理事長が医師であるため、週2回ホームに定期訪問し、利用者の健康管理を行っている。夜間及び緊急時にも対応しており、利用者や職員の安心を得ている。歯科・皮膚科・整形外科・接骨院等へは、事務職員が送迎を担当し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、家族に重度化した場合の支援に関する同意書を書いていただき、利用者本人や家族が、ホームでのターミナルケアを希望された場合も受け入れている。職員全員が、医師・看護師よりターミナルケアについての内部研修を受けており、支援できる体制である。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員に守秘義務に関する誓約書を提出してもらい、プライバシーに配慮した介護を行っている。入浴時には、同性介助を心がけている。記録等の書類は外部の人間や利用者に見られないよう、事務室にて管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、飲酒については自由である。買い物、散歩などは、人的な余裕のある時は、利用者の希望に沿い、利用者のペースに合わせて支援を行っている。食事時間や入浴時間も、利用者のペースに合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理については専門の調理員がいるので、テーブル拭きやお茶入れ、後片づけについては利用者に一緒にしていただいている。食器は利用者の使い慣れた物を、個々に用意していただいている。食事は会話を楽しみながら職員も一緒にいただいている。また利用者同士で、食べこぼしの始末をするなど、お互いに支え合っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴時間は日勤の職員がいる時に行っているが、希望によっては、午前中・夜間などに対応している。また入浴剤などで雰囲気を変えて、入浴を楽しんでいただけるよう工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	折り紙・お習字・草取り・生け花などを利用者と職員と一緒に楽しんでいる。強制はしていない。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、散歩をしたり、近くのコンビニやスーパーに買い物に行ったり、季節によっては車で30分位の場所(東松山のぼたん園・越生の梅林等)に外出する。また職員が用事で出掛ける時には、利用者も車に同乗し、ドライブを兼ねて外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵を掛けていない。玄関の鍵は人員不足や重度化から、鍵を掛けざるを得ない状況があるが、利用者の様子を観察し、外に出たい雰囲気がある時は、職員に付き添い、見守り支援をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議のなかで、地域住民の方に災害時の避難、誘導方法について周知している。1階の利用者はベランダに誘導、2階の利用者は非常階段に誘導し、そこからの誘導を夜間の職員の手薄なときに、地域住民の協力をお願いしているなど、災害対策について地域住民と共有されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下困難な方にはトロミをつけたり、義歯の方にはきざみ食やミキサー食にしたり、利用者の好みによっては献立を変えるなど、個別の対応をしている。バイタルチェック表には摂取量を記入し、利用者一人ひとりの栄養バランスを把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階と2階の玄関は別々になっていて、広々としている。2階の廊下やリビングは天窓になっていて、自然な光を取り入れて明るい雰囲気になっている。壁には飾りつけがされていて、季節の花が生けられている。リビングにはテレビやソファが配置されているため、日中はリビングで過ごされている利用者が多く、利用者にとって居心地の良い空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を、入居時に持って来ていただいている。調査時に見せていただいた居室は、タンス・テーブル・籐のイスなどを配置し、壁には絵を飾り、落ち着いて過ごせる雰囲気の居室になっている。また、家族が泊まれるように、簡易ベットも用意されている。		